

図書館の利用の仕方は最初が大切

新型コロナウイルスの影響で、図書館も例年にない状況が続いています。こんな時こそ、図書館の本で子どもたちの心を温かくしたい、励ましたいものです。新型コロナウイルス対応のためにはもちろんのことですが、日頃から一人ひとりが気持ちよく、楽しく利用できる図書館利用の仕方を、子どもたちと共に確認しながらオリエンテーションを行いましょ。話が進むにつれて、「早く本を借りたい!」「図書館って楽しそう!」と、感じるようなオリエンテーションにしたいですね。

各学校での約束があると思いますが、次の5つのことは必ず確認しましょう。

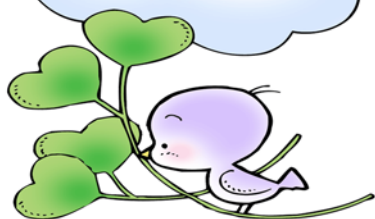
- ① 図書館はこんなところ
- ② 図書館の約束
- ③ 開館時間、閉館時間
- ④ 貸し出し冊数
- ⑤ 本の借り方、返し方

②は高学年であっても、再確認したいものです。

図書委員会の子どもたちには、自分の学校でできていることと、もう少しこうしたらより良い図書館になるということのような、意見をだしてもらいましょう。

コロナウイルス感染対策の事例とアイデア

- ・貸出期間を長くし、貸し出し冊数を増やすことで、図書館の利用頻度を下げる。
- ・入館前に手指のアルコール消毒を行う。
- ・図書館を開館している間は窓を開けて換気を行う。
- ・返却された図書は一定期間置いてから書架に並べる（ウイルスの消滅を待つ）。

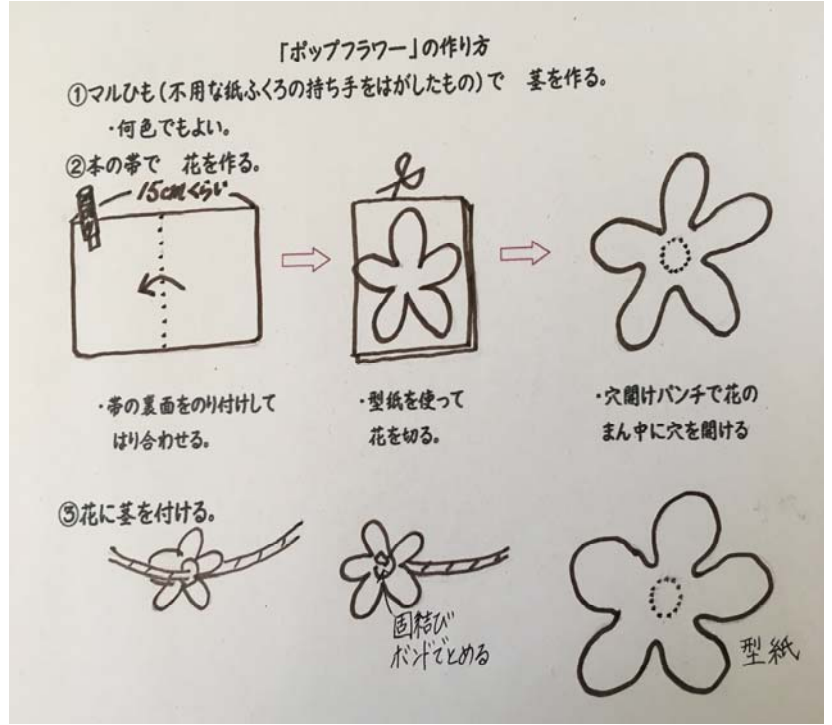


## 6月の展示・掲示あれこれ

毎月、図書室ならではの  
展示・掲示を紹介します！

ポップな色、紙の質も強い本の帯、カバーを使って  
図書室を明るくし、ジメジメ梅雨を吹き飛ばしましょう！

★本の帯と、使用済みの紙袋のひもがかわいいお花に大変身！



★豆が美しい季節、豆の本を紹介するコーナーに立体的な豆を飾り付けましょう！

のれんは、  
本の帯！



豆は、ティッシュ  
を緑の絵の具の  
水にひたして丸  
めます！

★本のカバーを使って、かわいい傘で雨の本を紹介しましょう！

本のカバー、帯で傘  
を、ストローで傘の  
柄を作ります。

文字は修正ペンで  
書くと立体的！



ペットボトルのキャ  
ップに、両面テー  
プで貼り付けます！

傘は分度器の大き  
さ、柄の長さは15  
センチくらいです。

## 6月生まれの文学者

✿ 「ズッコケ三人組」と那須 正幹（なす まさもと）

昭和17年6月6日 広島市生まれ

1978年にシリーズ第1作の『それいけズッコケ三人組』を出版し、2004年まで50作が作られました。

「ズッコケ三人組」の通っている花山第二小学校は、那須氏が通った己斐小学校がモデルになっているだけでなく、三人組の舞台となるミドリ市花山町そのものが、広島市己斐町をモデルにしています。JRの西広島駅やそのまわりの風景など、本の挿絵そっくりです。しかも、登場人物である、6年生のハチベエ、ハカセ、モーちゃんは、ハチベエは近所の男の子、モーちゃんは中学時代からの友人、そしてハカセは子ども時代の作者だそうです。そして、このズッコケシリーズが終わった後、2005年から2015年まで、この三人組が50歳になったシリーズとして「ズッコケ中年三人組」が10シリーズ作られました。

✿ 「100万回生きたねこ」と佐野 洋子（さの ようこ）

昭和13年6月28日 中華人民共和国北京市生まれ 平成22年11月5日没

「やぎさんのひっこし」で絵本作家としてデビューし、1977年に「100万回生きたねこ」を発表しました。

「100万回生きたねこ」は、王様、船乗り、手品使い、どろぼう、おばあさん、女の子など100万回も生き返っていろんな飼い主に愛されたねこが、自由なのらねこになりました。自由なのらねこになってはじめて愛することを知りました。そして、愛するものを失って涙を流し、もう生き返ることがなかったというお話です。大人の読者にとっても、「人生」「愛」について深く考え、感動させられる内容です。佐野氏は、ほかにも「空とぶライオン」「ふつうのくま」などの作品も発表しています。



あとがき

☆ 5月晴れの美しい青空の下、こいのぼりが気持ち良さそうに泳いでいます。花も虫もみんなが、学校に子どもたちの元気な声が響くのを待っていました。

「この本読みたかったんだ。」と、子どもたちが笑顔で図書室に戻ってくる姿が目に浮かびます。「図書室の本も、みんなのこと待っていたよ。」と話してあげてください。

☆「福岡アジア美術館」及び「福岡市総合図書館」で毎月行われている「お話し会」は、現在のところ新型コロナウイルス感染症の対応のため予定は未定です。

## 図書館員のひみつの本棚 第169回

今日は家の中で楽しめる科学の本です。

『よわいかみ つよいかたち』

かこ さとし著／絵 童心社 1988年 ¥1700 (税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★★ 小中学年★★★☆☆ 小高学年★★☆☆☆ 中学生☆☆☆☆

高校☆☆☆☆ 一般☆☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

1枚のハガキと10円玉を使って、実験を行いながら、紙の強い形を探っていきます。

はがきを半分に切って、2冊の本の間に橋のように置き、10円玉を乗せてみると何枚のりでしょうか？では、その紙を2枚にしたらもっとたくさんのりでしょうか？紙を山形に折ってみたら？

本を読みながら、同時進行で実験を行うと、子どもたちも作者と一緒に考えながら実験をすすめることができます。

作者は10円玉を38枚しか用意しないので、それより多く用意しておいて、絵本に書いてある実験の、その先をやってみるのも楽しいかもしれません。

紙の材質や実験装置の環境で、本の実験と同じ結果が得られない場合も多くありますが、作者と一緒に実験をして、一緒に考えながら、科学の楽しさを感じてもらえればと思います。

<子どもに手渡す時のポイント>

1988年の出版から長い間子どもたちを楽しませている本です。

優しい語り口の文章は、読みながら作者と一緒に実験を楽しんでいる感覚になります。実験ののち、紙の強い形が社会で広く利用されていると書いてあるページも、ぜひしっかり読んであげてください。実験を楽しむだけでなく、科学が社会に役立つ技術だということを実感してもらえればと思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。

発行：福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課  
電話：092-852-0639 FAX：092-852-0801

